

タイトル：2019年度 教育セミナー（第15回）

日時：2019年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室（303）

博田智（東京大学大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻 修士課程1年）

私はこの度中東☆イスラーム教育セミナーに参加させていただき、充実した4日間を過ごすことができました。中東やイスラームについて研究している他大学の院生と交流できたのは貴重な機会だったと思います。講義、他の受講生の方の研究発表、そしてポスター発表について感想を述べたいと思います。

歴史学、文学など様々なディシプリンの講義を受け、普段お会いすることのできない先生方の講義を聞くことができる貴重な経験でした。中東やイスラームという研究対象が同じであっても様々な切り口があるのだと改めて感じました。とりわけ3日目の藤波先生の講義は、これまでの自分のオスマン帝国に関する歴史観を問い直すものであり大変興味深かったです。

他の受講生の方の研究発表は、多くの史料を読み込んでいたことに圧倒されました。講義や研究発表では、歴史学を専門とされている方が多くいらっしゃったので、歴史学の方法論に対する理解が深まったと思います。発表に関する質疑応答では、修士論文を書くにあたって多くのことを学ばせていただきました。問題設定の仕方や他言語から日本語に翻訳する際の言葉の選び方といったことは、研究をする上でとても重要であることを再認識しました。

また、私はこのセミナーでポスター発表というかたちで自分が関心の持っているテーマについて発表させて頂きました。これまで研究発表のポスターを作成したことがなかったので作成は大変でしたが、これまで読んできた文献や自分の考えを整理するきっかけになりました。夏休みは大学の授業等がないため研究から離れがちになりますが、今回のセミナーがあったことでポスター発表という目標を持って有意義に夏休みを過ごせたのではないかと思います。発表当日には多くの方からご質問を頂き、自分とは専門が異なる人にわかりやすく伝えることの難しさを痛感しました。また、先生方からポスター作成や今後の研究の進め方についてアドバイスをいただき、修士論文を書く上で先行研究の整理がまだ不十分であることがわかりました。修士論文を執筆しようと考えている人にとっては、ポスター発表は自分の研究を見つめ直す良い機会になると思うので、積極的に参加されることをお勧めいたします。

来年は研究発表というかたちでセミナーに参加させて頂きたいと思いました。最後になりましたが、AA研の先生方や講義をしてくださった先生方やFSC事務局の千葉様、そして受講生の皆様ありがとうございました。